

令和 2 年 5 月 19 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13558

研究課題名（和文）中世イタリアにおける「市井の金貸し」と都市当局

研究課題名（英文）Moneylender and authorities in late medieval Italy

研究代表者

中谷 惣 (NAKAYA, SO)

大阪大学・文学研究科・准教授

研究者番号：10623390

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、イタリア中世都市における金銭貸付の実態を解明するものである。中世の都市社会の経済的基盤であった消費貸借は、従来、モンテ・ディ・ピエタやユダヤ人金貸し、または両替商などの専門の金貸し業者に注目して、研究されてきた。これに対し、公証人文書や覚書の分析に基づいて、私人間での貸し借りが多くなされていた実態を明らかにし、社会的な信頼を基礎とした貸付ネットワークが張り巡らされていたことを解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は近代の銀行業が現れる以前の金融の実態を検討したものである。大銀行家による世俗権力への貸付は検討されてきたが、一般市民が関わる金融は未解明なままであった。その中で、本研究では、一般市民の間での金の貸し借りが、消費貸借の重要な部分を構成しており、それを都市当局の裁判制度が支えていたことが明らかとなった。前近代の日常レベルの金融のあり方の解明は、昨今、混迷を深める現代の消費金融のあり方を再考するヒントを与えるものとなる。

研究成果の概要（英文）：This study aims to reveal the practice of money lending in medieval Italian cities. Consumption lending, which was the economic foundation of medieval city society, has traditionally been studied, focusing on professional moneylenders such as Monte di Pieta', Jewish moneylenders, or money exchangers. In contrast, on the basis of notarial documents and memorandum, I discovered the diffusion of loans between ordinary people and the establishment of a credit network based on social trust.

研究分野：イタリア中世史

キーワード：都市社会史 クレジット

1. 研究開始当初の背景

本研究は、イタリア中世都市における金銭貸付の世界の実態を解明するものである。従来、中世の金銭貸付については、キリスト教社会における徴利禁止の原則との関係で、思想史や文化史の側から多くの研究されてきた。これに対し近年では金銭貸付の実態面へと関心が広がっており、ユダヤ人金貸しや、その後の15世紀後半以降、貸金業の中心となったモンテ・ディ・ピエタ（以下モンテ）と呼ばれる公益質屋の活動が特に注目されている。

これに対して、ユダヤ教徒の銀行やモンテといった大規模な貸付機関が登場する以前の、13、14世紀の金貸しの世界についても近年ようやくその実態が解き明かされつつある。ここでは、複数の小規模なキリスト教徒の貸金業者が、教会の徴利禁止をかいくぐって貸金業を営んでいたことが注目されているが、その実態は未解明な部分が多い。また、専門の貸金業者ではなく、一般の市民が一時的な余剰資金を貸付に向けており、市民間でのクレジット市場が形成されていた可能性も指摘されているが、それに関する本格的な研究は進んでいない。

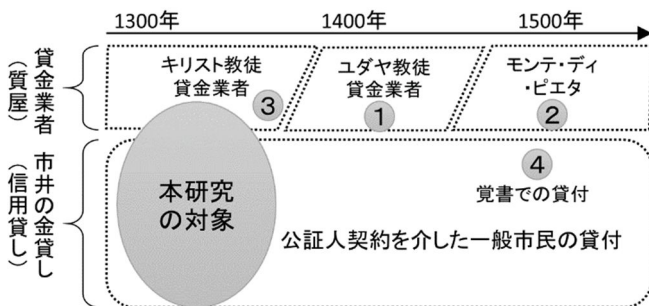


図1 14～16世紀の金銭貸付の構図と本研究の対象

2. 研究の目的

本研究は、ユダヤ教徒やモンテ・ディ・ピエタによる組織的な貸付が始まる以前における、貸付の実態を明らかにすることを目的とする。なかでも一般市民同士で行われていた貸付に注目することで、従来、専門の貸金業者である質屋によって担われていたとされる消費金融の世界を再考し、中世イタリア都市の経済の基礎の実態を明らかにする。特にイタリア中部の都市ルッカに残る公証人文書と覚書を検討し、市民による金銭貸付のネットワークを把握する。さらに、都市法廷の裁判記録を分析し、負債と化した債権の回収の問題も視野に入れることで、個人間の金銭貸付という社会内部の活動を、より広い公的な枠組みの中で論じる。

3. 研究の方法

まず最新の先行研究、特に欧米で進められている中世の消費貸借に関する社会史、経済史、負債に関する司法史の研究を検討し、理論的視座を確立する。

各年、ルッカ国立文書館に赴き、未刊行の史料の調査、分析を行う。公証人登録簿には、多くの金銭貸借契約が収録されているが、それを基に私人間での貸付活動の規模を検討する。また、市民の覚書資料を検討することで、公証人の下で行われることがなかったより少額の金銭や物品の貸借の実態を明らかにする。民事の裁判記録簿も分析し、それらの返済が滞った案件に関しての訴えや、法廷による差押えの実態を検討する。

史料調査に基づく成果の発表に先立ち、同分野の研究をけん引するアムステルダム大学のガ

イ・ゲルトナー教授や、ポローニャ大学のマリア・ジョゼッピーナ・ムツアレリ教授らと研究ディスカッションを行い、成果の発表の方法や、研究の方向性の微修正を適宜行う。

4. 研究成果

研究期間を通じて、3度にわたりルッカ国立文書間での史料調査を行うことができた。予定していた、公証人文書、覚書、裁判記録などの史料を調査、分析し、市民間の貸付の規模の大きさ、貸付とマテリアリティとの関係、貸付ネットワークの複層性、債権回収に関する都市当局の制度の利用可能性などを検討した。

この研究の過程では、2019年2月にはポローニャ大学でムツアレリ教授と研究ディスカッションを行い、また2019年4月にはアムステルダム大学のガイ・ゲルトナー教授を招き、イタリア中世都市の社会史に関する研究会を開催する中で、研究成果の意義を明確にすることができた。

本研究の成果は、2019年3月の関西中世史研究会、同年7月にイギリス・リーズで開かれた国際中世学会で‘The Credits and the Moneylenders in Late Medieval Italy’という題目で口頭発表した。また、マンハイム大学のアネット・ケーネル教授とステファン・ケラー博士らの研究グループの主催で2019年10月にドイツ・ハイデルベルクで開催された国際シンポジウム *Change and Transformation of Premodern Credit Markets* において、‘Small loans to rural men in late medieval Tuscany’の題目で発表した。これらの発表にはヨーロッパ中近世の多様な地域を研究する研究者が集まっており、イタリア都市の貸付の規模の大きさや特徴、また公証人文書が中心となるこの研究分野で、覚書史料を検討することの重要性が議論され、大きな反響を得ることができた。

研究論文では、ユダヤ教徒の金貸しが広がる以前のイタリア諸都市での貸金業者の活動の形態と実態に関して論じた論考「イタリア中世都市におけるキリスト教徒の金貸し」を『待兼山論叢』上で発表したほか、都市と農村の間をつなぐ貸付ネットワークに関する論考‘Small credit network between city and countryside in late medieval Italy’をハイデルベルグ大学出版会より出版予定の論文集への掲載が確定している。またさらに、覚書資料における少額貸付の特徴と公証人文書上での貸付の関係に関する論考‘The doctor’s memorandum and small credits’を *Archivio storico italiano* 誌に投稿予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中谷 惣	4. 巻 53
2. 論文標題 イタリア中世都市におけるキリスト教徒の金貸し	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 イタリア中世都市におけるキリスト教徒の金貸し	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 So NAKAYA
2. 発表標題 Change and Transformation of Premodern Credit Markets
3. 学会等名 Change and Transformation of Premodern Credit Markets（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 So NAKAYA
2. 発表標題 The Credits and the Moneylenders in Late Medieval Italy
3. 学会等名 International Medieval Congress（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----